

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質								4.2	
Q1 室内環境								4.0	
1 音環境			0.40					3.6	
1.1 騒音			3.8	0.15		3.4	1.00		
1.1.1 騒音			5.0	0.40		4.0	0.40		
1 室内騒音レベル		一般壁で遮音性能TLd45を採用。これまでの実績評価による。	5.0	1.00		4.0	1.00		
2 設備騒音対策			-	-		-	-		
1.2 遮音			3.0	0.40		3.0	0.40		
1 開口部遮音性能			3.0	0.40		3.0	0.30		
2 界壁遮音性能			3.0	0.60		3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-		3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-		3.0	0.20		
1.3 吸音			3.0	0.20		3.0	0.20		
2 温熱環境			4.0	0.35		4.0	1.00		4.0
2.1 室温制御			5.0	0.50		5.0	0.50		
1 室温		冷暖アースシステム採用	5.0	0.38		5.0	0.57		
2 負荷変動・追従制御性			-	-		-	-		
3 外皮性能		外付きルーフ、庇等により直射光を制御	5.0	0.25		5.0	0.43		
4 ゾーン別制御性		空調ゾーン細分化	5.0	0.38		-	-		
5 温度・湿度制御			-	-		-	-		
6 個別制御			-	-		-	-		
7 時間外空調に対する配慮			-	-		-	-		
8 監視システム			-	-		-	-		
2.2 湿度制御			3.0	0.20		3.0	0.20		
2.3 空調方式			3.0	0.30		3.0	0.30		
3 光・視環境			3.3	0.25		3.8	1.00	3.4	
3.1 昼光利用			3.0	0.30		3.0	0.30		
1 昼光率			3.0	0.60		3.0	0.60		
2 方位別開口			-	-		3.0	-		
3 昼光利用設備			3.0	0.40		3.0	0.40		
3.2 グレア対策			4.0	0.30		4.0	0.30		
1 照明器具のグレア			-	-		-	-		
2 昼光制御		ブラインド及び庇を設置	4.0	1.00		4.0	1.00		
3 映り込み対策			-	-		-	-		
3.3 照度			3.0	0.15		3.0	0.15		
3.4 照明制御		病室・ベッド単位で点滅区分を細分化	3.0	0.25		5.0	0.25		
4 空気環境			4.8	0.25		5.0	1.00		4.9
4.1 発生源対策			5.0	0.50		5.0	0.63		
1 化学汚染物質		F を全面的に採用。又VOCの放散量の少ない材料の採	5.0	1.00		5.0	1.00		
2 アスベスト対策			-	-		-	-		
3 ダニ・カビ等			-	-		-	-		
4 レジオネラ対策			-	-		-	-		
4.2 換気			4.5	0.30		5.0	0.38		
1 換気量		HEASに基づく換気量設計	5.0	0.50		5.0	0.33		
2 自然換気性能		病室・自然換気窓と外部エコシャフトによる自然換気の採用	3.0	-		5.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		外気取入口と排気口の距離の確保	4.0	0.50		5.0	0.33		
4 給気計画			-	-		-	-		
4.3 運用管理			5.0	0.20		-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視			3.0	-		-	-		
2 喫煙の制御		全館禁煙	5.0	1.00		-	-		
Q2 サービス性能			-	0.30		-	-	4.3	
1 機能性			4.2	0.40		5.0	1.00	4.4	
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40		5.0	0.60		
1 広さ・収納性		個室10㎡以上、多床室8㎡/床以上を確保	3.0	-		5.0	1.00		
2 高度情報通信設備対応			3.0	-		3.0	-		
3 バリアフリー計画			3.0	1.00		-	-		
1.2 心理性・快適性			5.0	0.30		5.0	0.40		
1 広さ感・景観		病室の天井高2.7m以上を確保	3.0	-		5.0	0.50		
2 リフレッシュスペース			3.0	-		-	-		
3 内装計画		木目調の内装計画、モックアップによる病室検証	5.0	1.00		5.0	0.50		
1.3 維持管理			5.0	0.30		-	-		
1 維持管理に配慮した設計		ソックス床材、床材立上げによる清掃性の向上	5.0	0.50		-	-		
2 維持管理用機能の確保		SKの確保、照度の適正化、清掃職員スペース確保	5.0	0.50		-	-		
3 衛生管理業務			-	-		-	-		
2 耐用性・信頼性			4.5	0.31		-	-		4.5
2.1 耐震・免震			5.0	0.48		-	-		
1 耐震性		基準法の1.5倍以上の耐震性を確保	5.0	0.80		-	-		
2 免震・制振性能		積層ゴムによる基礎免震構造の採用	5.0	0.20		-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数			3.8	0.33		-	-		
1 躯体材料の耐用年数		水セメント比55%以下でかぶり厚、配筋等の基準に適合する	4.0	0.23		-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		コンクリート面はフッ素樹脂コート、ルーフは給水率0%のセラミック材	4.0	0.23		-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		ルードな利用が想定される部分にはメッキ化粧板3mmを設置	4.0	0.09		-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		耐湿箇所へのカルバリウム鋼板ダクトの採用	5.0	0.08		-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:管塩ビラインク鋼管 給湯:一般配管用ステンレス鋼管の採用	4.0	0.15		-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23		-	-		

2.4 信頼性			4.8	0.19	-	-	
1	空調・換気設備	蓄熱式空調、フルデマンドバックアップによる負荷制御	5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	井水飲用ろ過、上水+雑用水の2系統給水	5.0	0.20	-	-	
3	電気設備	非常用発電機によるフルデマンドバックアップ、電源供給2重化	5.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	耐震施工	5.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	光ケーブル、メタルケーブルによる通信手段の多様化	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			4.1	0.29	3.6	1.00	3.9
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	4.2	0.50	
1	階高のゆとり	病棟階高3.9m確保	5.0	0.60	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	ロングスパン、軽鉄間仕切、PS位置適正化	4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			4.6	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性	5階をISS階とし用途階に関係なく更新ができる構成	5.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	床上配管とし、予備スリーブを十分確保し躯体を傷めず更新できる構	4.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	ゆとりを持ったケーブルラック、スペースの確保	5.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	情報用ラックスペースの確保	5.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	主要設備機器の更新ルート確保	5.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース	エネルギーセンターの更新スペース確保	4.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.5
1 生物環境の保全と創出		既存のケヤキ並木を移植保存、屋上緑化等緑に触れ合える療養環境	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		既存キャンパスの景観に配慮し、白を基調としたタイルを採用。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	敷地内開放、散策スペース確保	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	屋上緑化	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4
1 建物の熱負荷抑制		建物方位配慮、屋上緑化、ペアガラス採用	4.1	0.30	-	-	4.1
2 自然エネルギー利用			4.5	0.20	-	-	4.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	ハイサイドライト、換気用自動ダンパー、クールヒートポンプ	4.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電、太陽熱給湯、井水熱	5.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		熱回収HP給湯	4.5	0.30	-	-	4.5
集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)			4.5				
集合住宅の評価		ERR=26%	3.0				
4 効率的運用			5.0	0.20	-	-	5.0
4.1	モニタリング	BEMS、用途別、部門別エネルギー管理	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	管理・営繕センターを中心とした運用管理体制構築	5.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	自動水栓の採用、シャワー利用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.63	-	-	4.0
2.1	材料使用量の削減	コ:FC36以上、鋼:F=325以上、その他FC150高強度コ350 柱	4.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.21	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	パルティクルボード、高炉セメント、再生骨材の路盤材使用	5.0	0.21	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	ユニットバス、ユニットドア、LGS壁	5.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.22	-	-	4.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用	ビニル床シート用、壁紙、フローリング用接着剤	5.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.6	0.68	-	-	
1	消火剤	ハロン消火の使用回避	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒	フロン冷媒の使用回避	4.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	4.0
1 地球温暖化への配慮		ERRの向上による運用段階CO2削減	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			4.0	0.33	-	-	4.0
2.1	大気汚染防止	燃焼機器の局所化	4.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	屋上緑化、空冷機器+燃焼機器の最小化	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車台数、駐輪台数の適正化	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミ分別収集、生ゴミ減容・減量化	5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			4.2	0.33	-	-	4.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			5.0	0.40	-	-	
1	騒音	規制値よりも10dB以上騒音値を抑制	5.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、日照障害の抑制			3.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制	高層建物を中央に配置し周辺への日影の影響を低減	4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	看板等敷地外への光漏れの抑制	5.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	